様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ５ 月 １６ 日現在

機関番号：３４３１６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2017
課題番号：２６３７０８４２

研究課題名（和文）中国古代国家の形成と都市社会

研究課題名（英文）Formation of Chinese Ancient States and Urban Societies

研究代表者
江村　治樹（EMURA, Haruki）

龍谷大学・文学部・教授

研究者番号：８００９３２０１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：　都市遺跡のデータベースによって作成した「新石器時代都市遺跡表」と都市遺跡の現地調査などに基づき、新石器時代から二里頭文化時期までの都市社会を分析し、初期国家の出現と二里頭文化時期、殷周時代の広域国家成立過程を考察した。その結果、黄河中流域と成都市周辺以外では都市が衰退し、初期国家も断絶することが明らかになった。とくに黄河中流域の二里頭文化期以後の都市発展と広域国家の成立には、この地域が文化交流や交易において中国の中心に位置したことが大きい。この条件は戦国時代まで変わらないと考えられる。

研究成果の概要（英文）：　We considered the process in which the appearance of the initial state leading into the Erlitou Culture Era developed into the broader-based states in the Yin and Zhou Periods by analyzing urban societies from the Neolithic Age to the Erlitou Culture Era. This was accomplished with references from “Table of city ruins in Neolithic Age” based on the database regarding city ruins, and the field surveys of city ruins. As a result, it was clarified that other than the cases of the Yellow River middle reaches, Chengdu City and surrounding areas, cities declined, resulting in the rupture of the initial state. From this point in time, the development of cities and the formation of the broader-based states in the Yellow River middle reaches following the Erlitou Culture Era were attributed to the fact that these regions were situated in the center of China in terms of cultural communication and commerce. This situation persisted until the Warring States period.

研究分野：人文学

キーワード：古代都市　古代国家　新石器時代　二里頭文化　殷周時代　データベース　国際情報交換

１．研究開始当初の背景

（1）中国古代国家の形成や特質の解明については、日本と中国の学界において、これまで様々な側面からアプローチされてきた。中国において国家が何時ごろどの地域で出現するのかについては、考古学的遺跡、遺物によって早くから検討が試みられている。殷王朝については甲骨文字、周王朝については金文資料による長期にわたる研究の蓄積があり、制度的な側面や特質はかなり明らかにされている。そして、春秋戦国国家から秦漢帝国に関わる研究は､日本では1950年代以後、文献史料に基づく豊富な成果の蓄積があり、制度のみならず社会的、経済的背景についても詳細な検討が進められてきた。しかし、これまでの研究は資料的な制約もあり、基本的に時代ごとに個別に孤立して進められてきたと言ってよい。近年、新石器時代の国家の萌芽から殷周国家がどのようにして形成されてくるのかがようやく問題とされるようになっているが、殷周国家から秦漢帝国の形成に至る問題については研究の専門分化もあり、必ずしも研究が進展しているとは言えない。

（2）新石器時代における国家の出現については、近年この時代の都市遺跡の発見が相継ぎ、中国では考古学の分野で都市の側面から議論が活発に行われており、研究の進展も著しい。殷周時期の都市についても調査の進展や新しい遺跡の発見により研究は盛んであるが、都市住民の在り方を視野に入れた研究はまだ乏しい。私はこの点について、平成23年度から25年度の科学研究費の研究課題「中国古代都市社会形成論」において集中的に検討し、その研究成果として「先秦都市社会の形成―二里頭・殷周から戦国へ」と題する論文を『東洋史苑』第81号（2013年12月）に発表し、二里頭文化と殷周時代の都市社会の実態と特質を明らかにしようとした。また戦国秦漢時代の都市と国家の関係については、すでに『戦国秦漢時代の都市と国家―考古学と文献史学からのアプローチ』（白帝社、2005年）を公刊している。新石器時代の都市社会と初期国家の究明は課題として残っているが、二里頭文化時期から戦国時代までの都市社会と国家に関する通時的検討はかなり進捗している。

２．研究の目的

本研究は、都市社会の側面から中国古代国家の形成過程を捉え直すことを目的とする。中国古代都市社会の形成過程は三段階に分けて考えることができる。第一段階は都市が出現し国家の萌芽が想定される新石器時代、第二段階は都市社会が成立し広域的王朝国家が形成される殷周時代、そして第三段階は都市が発達し官僚制的専制国家の形成に向かう春秋戦国時代である。春秋戦国時代の都市社会が、どのように国家の在り方を規定したかはこれまで集中的に検討してきたが、本研究では、都市遺跡や甲骨文字、金文資料および文献史料を用いて、それ以前の第一段階と第二段階の都市社会が当該時代の国家の形成にどのように係わり、第三段階の国家にどのように展開していくのかについて総合的に解明することを目指す。

３．研究の方法

（1）聚落や都市遺跡資料の収集整理、主要な都市遺跡の現地調査および新石器時代から春秋時代までの中国古代国家論の把握を並行して進める。聚落や都市遺跡資料の整理は従来と同様、マイクロソフト社のデータベースソフト「FileMaker」によって、研究補助者の協力のもとに進める。殷周国家と直接関係ある大型都市遺跡調査は居住者の在り方に焦点を合わせて重点的に行う。そのため殷代史専門の中国社会科学院歴史研究所副所長の王震中教授に協力を要請する。また陝西師範大学環境開発中心の侯甬堅教授、北京大学考古文博学院の徐天進教授、さらに復旦

大学中国歴史地理研究所の李暁傑教授にも現地調査や資料収集の協力を仰ぐ。一方新石器から春秋時代までの国家論に関係する研究史を整理し問題点を明らかにする。またそのため甲骨、金文、古典籍の関係資料を収集する。

（2）以上の新石器時代から殷周時代の都市遺跡のデータベース化、現地調査の成果を踏まえて当該時代の都市と国家の関係を検討し、戦国時代の都市発展に至る中国古代国家の形成過程について考察する。

４．研究成果

（1）全年度を通して、考古学の報告書、考古学関係雑誌、『中国文物地図集』などから新石器時代から殷周時代の聚落や都市遺跡に関する資料、都市と国家との関係に言及した論文などを検索、収集し、データベースソフト「FileMaker」によってデータベース化した。そして、このデータベースを整理して「新石器時代都市遺跡表」、「新石器時代都市遺跡分布図」を作成した。また、古代国家の成立やあり方の解明に必要と考えられる玉器資料のデータベース化も前々年度から開始した。

（2）初期国家論について中国の学界の見解を把握するため、関係する考古学関係雑誌掲載論文を整理するとともに、王震中『中國古代国家的起源与王権的形成』（中国社会科学出版社、2013 年）、林華東『良渚文化研究』（浙江教育出版社、1998 年）など重要な著作の整理も行った。王震中氏の著作の翻訳出版を考えたが時間的な問題で果たせなかった。

（3）初年度は浙江省社会科学院歴史研究所の林華東氏、復旦大学歴史地理研究所の李暁傑教授の協力のもと、浙江省杭州市近辺の良渚古城、玉架山聚落遺跡、越王城、湖州市の下菰城の現地調査を行い最新の情報を収集した。特に良渚古城については林華東氏から特別の情報提供があった。前々年度には、四川大学文化科技協同創新研発中心長の姜生教授、同客員教授の三浦国雄氏の協力のもと、成都市周辺の四つの宝墩文化の都市遺跡を調査し、現地の発掘責任者（成都市文物工作隊員）から最新の情報を収集した。また四川省文物考古研究院の高大倫院長はじめ研究員から成都市周辺の古代都市遺跡に関する最新の情報を収集した。そして、最終年度には、陝西師範大学環境開発中心の侯甬堅教授、西北大学の段清波教授の協力のもと、西周時代の豊鎬遺跡、周原遺跡、春秋時代の秦都雍城遺跡の現地調査を行い最新の情報を収集した。とくに周原遺跡では、近年のこの地域の発掘責任者である北京大学考古文博学院の徐天進教授から最新の情報を得るとともに、現地の遺跡の案内と説明もしてもらった。

（4）以上の「新石器時代都市遺跡表」、前回科研費で作成した「二里頭・殷周都市遺跡表」、都市遺跡の現地調査、中国の研究者からの情報提供、中国における初期国家論の整理などに基づき、新石器時代から二里頭文化時期の都市社会を分析し、都市の出現と初期国家の関係、二里頭文化時期以後、殷周時代の広域国家への展開について都市社会の側面から考察した。まず新石器時代の都市の出現、発展した地域について、黄河流域に四つの地域（河南、山東、山西南部、陝西北部・内蒙古中西部）、長江流域では三つの地域（浙江北部・江蘇南部、湖南北部・湖北南部、四川成都市周辺）が確認でき、国家の萌芽も認められた。しかし、これらの地域で二里頭以後も都市の発展が持続し、継続して国家の成長が見られるのは河南地域と成都市周辺だけである。新石器時代の都市の衰退・断絶については、中国の学界では気候変動、内部要因、外部勢力との関係など様々な要因が想定されている。一方、河南地域における都市の継続的発展と広域国家の成立に関しても多様な見解が存在するが、他の地域になく河南地域にのみある条件は当時の中国において中心に位置したことである。中心に位置するこ

とは文化融合や交易にとって極めて有利であったはずである。文化的、経済的多様性こそが広域国家の確立と中国文明の形成をもたらしたと考えられる。この地域の都市と国家の発展は、二里頭文化時期、殷周時代にも受け継がれる。また戦国時代においてもこの地域を中心とする都市の爆発的発展も同様の理由によると言ってよい。なお、成都市周辺の都市の継続的発達と国家の持続も四川地域の中心としての意義が大きいが、中国の辺境に位置したため国家発展に限界があったと考えられる。

（5）以上の研究成果は、「先秦都市社会の形成（続）－新石器時代」（東洋史苑 86.87 号合併号、2016 年）として公表し、この論文と現地調査の成果をまとめて、平成 29 年度科学研究費研究成果報告書『中国古代国家の形成と都市社会』（2018 年）を公刊した。

（6）新石器時代の都市遺跡を全面的に整理し、地域ごとの都市の在り方と都市間関係および初期国家について比較検討した研究は日本では始めてであり、中国でもこれだけ全面的には行われていない。とくに日本における都市と初期国家に関わる研究への影響は大きいと考える。また、初期国家から広域国家への展開の要因について、中国では様々な説が提起されているが、地域間の比較検討によって要因を絞り込むことができたのは、中国の学会に対する大きな問題提起と考える。今後の展望については、広域国家の統治システム形成の具体的検討が重要となる。都市遺跡からだけでは限界があり、玉器や青銅器などからのアプローチが必要である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

① 江村　治樹、先秦都市社会の形成（続）-新石器時代、東洋史苑、査読無、第 86・87 合併号、2016、1-72

〔学会発表〕（計 2 件）

① 江村　治樹、2015 年 3 月杭州周辺遺跡調査・中国新石器時代の都市の展開と国家、日本考古学会中部部会、2016 年 6 月 18 日、南山大学

② 江村　治樹、中国新石器時代の都市発達をめぐる諸問題、中国古代史及び敦煌・トゥルファン文書研究国際シンポジウム、2015 年 12 月 19 日、大谷大学

〔図書〕（計 1 件）

① 江村　治樹、（名古屋大学生活協同組合・印刷部）、平成 29 年度科学研究費基盤研究（C）研究成果報告書、中国古代国家の形成と都市社会、2018、110

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
なし

６．研究組織

(1)研究代表者
江村　治樹（Emura,Haruki）
龍谷大学・文学部・教授
研究者番号：80093201

(2)研究分担者
なし

研究者番号：

(3)連携研究
なし

研究者番号：

(4)研究協力者
林　華東（LIN,Huadong）
李　暁傑（LI,Xiaojie）
三浦　国雄（MIURA,Kunio）
姜　生(JIANG,Sheng)
侯　甬堅(HOU,Yongjian)